



令和2年1月9日

令和元年中の救急出場件数が過去最多を更新

～救急車の適正利用に引き続きご協力を！～

令和元年中の東京消防庁救急隊の出場件数は825,933件（速報値）で、救急業務を開始した昭和11年以来、2年連続で80万件を超え過去最多を記録しました。

これまでの最多である平成30年中の出場件数818,062件と比較すると、7,871件、1.0%の増加となりました。

これは、1日あたり約2,263件、約38秒に1回の出場があったこととなります。

東京消防庁では、増大する救急需要に適切に対応していくため、救急車の増強整備を図るとともに救急車の適正利用、「#7119」救急相談センター・東京版救急受診ガイドの活用を呼びかける等、都民の安全・安心のための施策に取り組んでまいります。

1 出場件数及び年代別搬送人員の推移等について（資料1）

令和元年中の東京消防庁救急隊の出場件数は、10年連続で過去最多を更新しました。

搬送された方を年代別で比較すると、高齢者層での増加が顕著となっており、特に75歳以上の搬送人員は286,052人で、全搬送人員である731,868人の4割弱（39.1%）を占め、今後も超高齢社会の進展に伴う救急要請の増加が見込まれます。

2 現場到着時間について（資料2）

救急要請件数の増加に伴い、救急隊が救急現場に到着する時間が延伸傾向にありましたが、「2020年に向けた実行プラン」において掲げた令和2年度目標である7分を達成し、令和元年中の平均到着時間は平成30年中より27秒短い、6分35秒となりました。

引き続き増大する救急需要に対する取組を推進し、さらなる現場到着時間の短縮に努めてまいります。

3 初診時軽症割合について（資料2）

救急搬送された方が初診医師により軽症と判断された割合は、平成18年の60.3%をピークに年々減少してきましたが、平成26年から一時増加に転じ近年は横ばいの状況で、令和元年中は54.2%でした。救急搬送された方の半数以上が入院を要さない状況であることから、平成19年6月から導入した「#7119」東京消防庁救急相談センター及び平成24年4月から提供を開始した東京版救急受診ガイドのさらなる利用促進を図ってまいります。

※ 「軽症」とは初診医師により入院を要しないと判断されたものをいう。

4 救急相談センター受付件数が過去最多を更新（資料3）

救急車を呼んだ方がいいのか迷った場合の電話相談窓口として「#7119」東京消防庁救急相談センターを開設しています。24時間・年中無休で「症状に基づく緊急性のアドバイス」、「受診の必要性に関するアドバイス」「医療機関案内」を提供しています。

令和元年中における救急相談センターの受付件数は417,013件、うち救急相談件数は231,686件で、ともに過去最高件数となりました。多くの都民の方々から利用されており、急な病気やけがをした際の安全安心を提供しています。

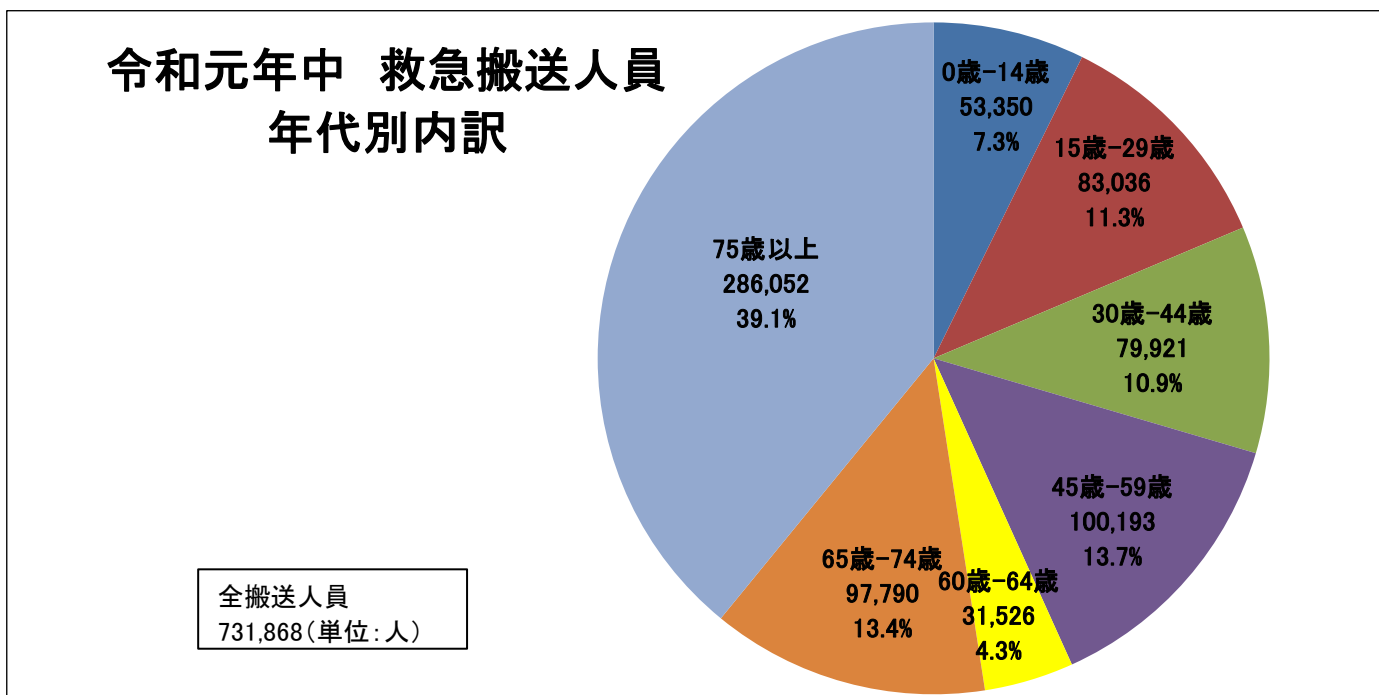
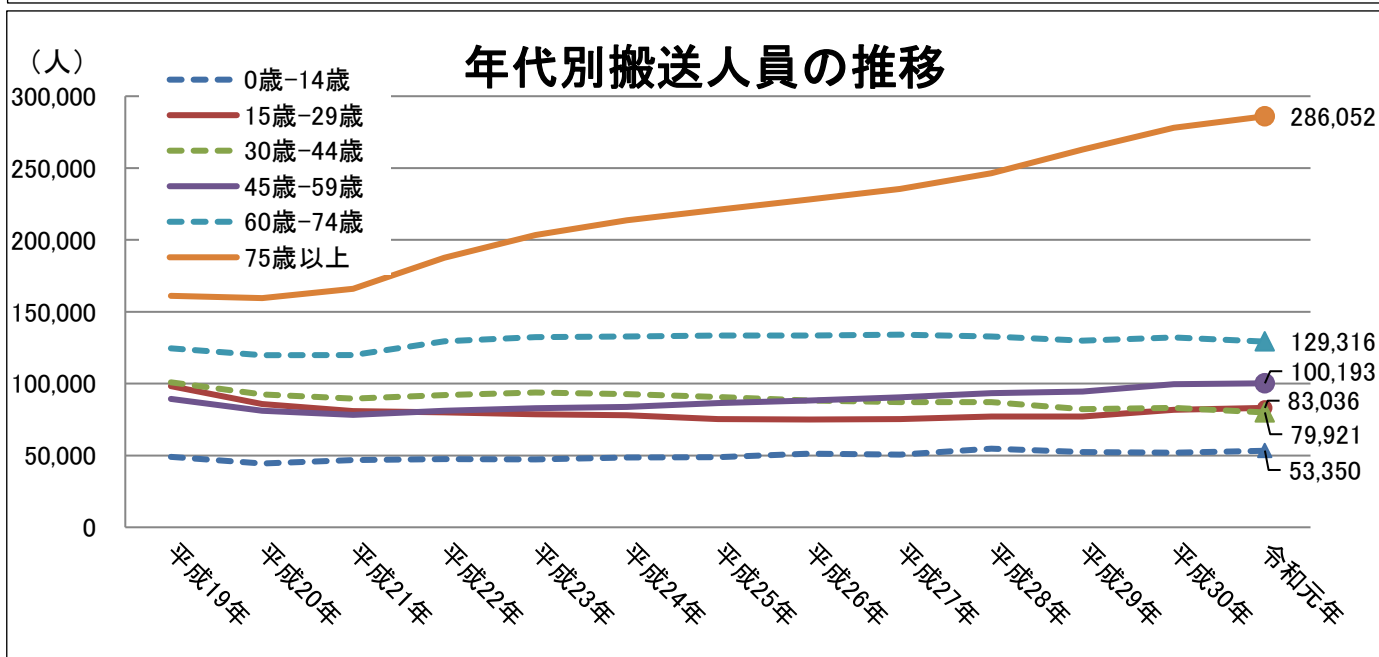
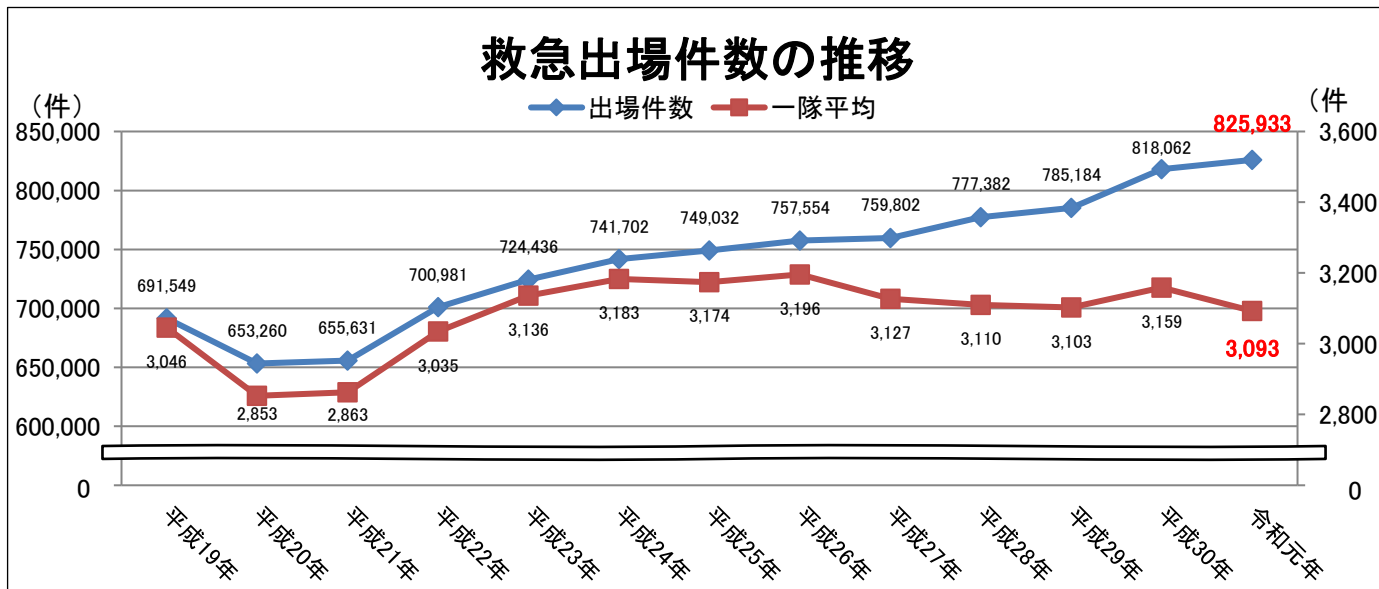
「2020年に向けた実行プラン」事業

本件は、「2020年に向けた実行プラン」に係る事業です。

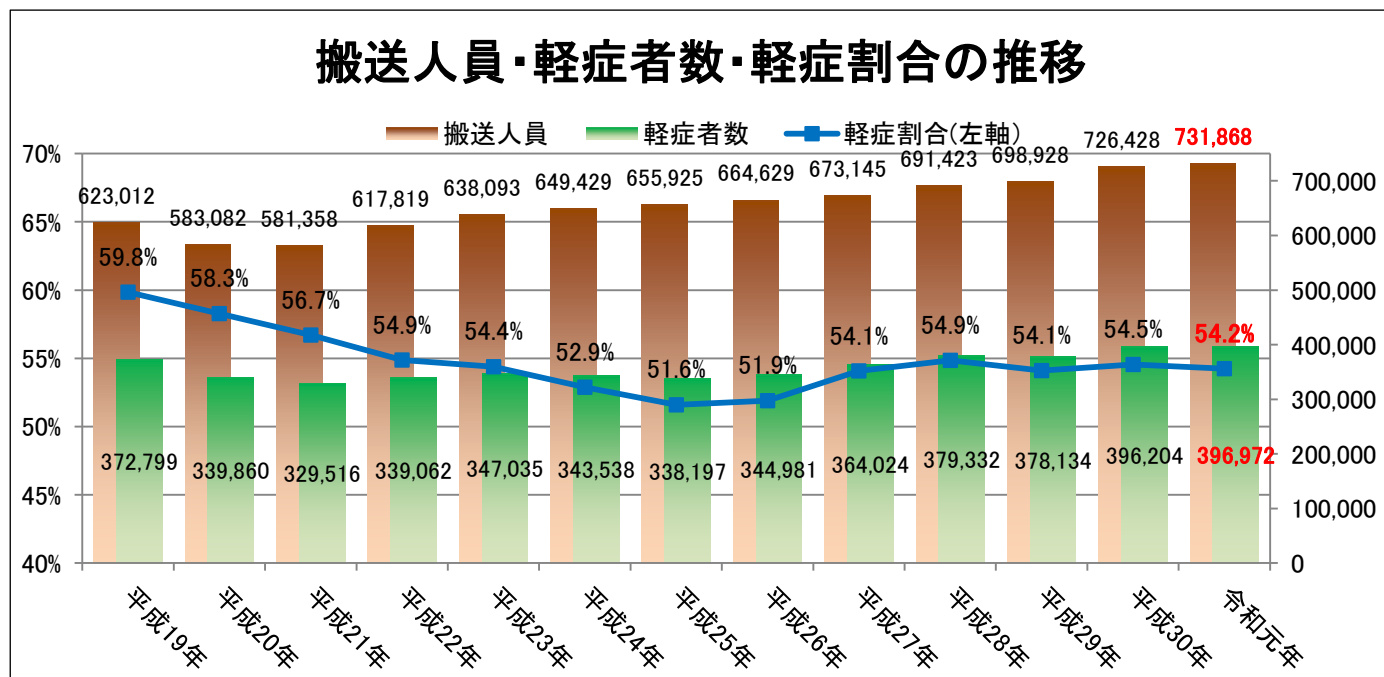
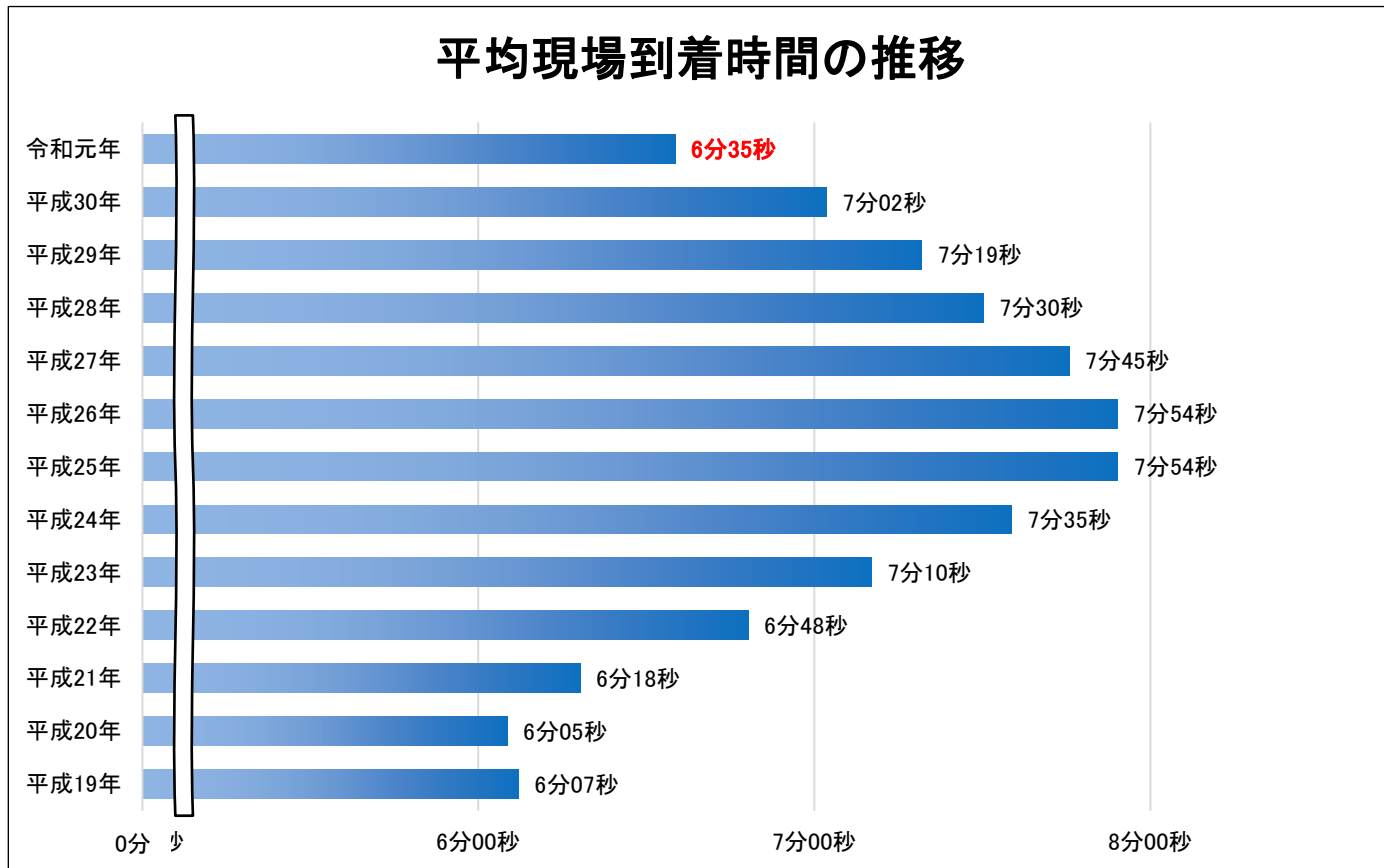
「セーフシティ 政策の柱2 自助・共助・公助の連携による防災力の向上」

問合せ先

東京消防庁 (代) 電話 3212—2111
救急管理課救急情報係 内線 4465
救急医務課救急相談係 内線 4546
広報課報道係 内線 2345

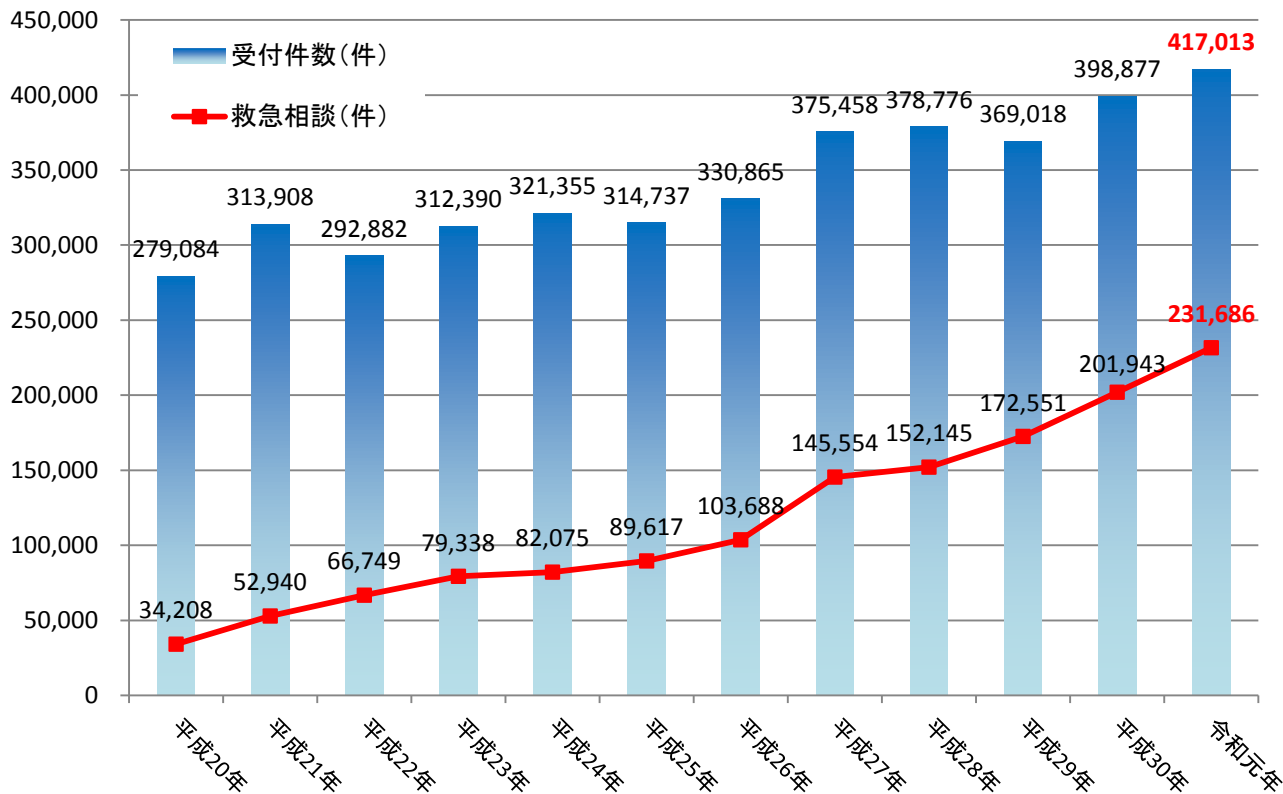


※ 令和元年のデータはすべて速報値

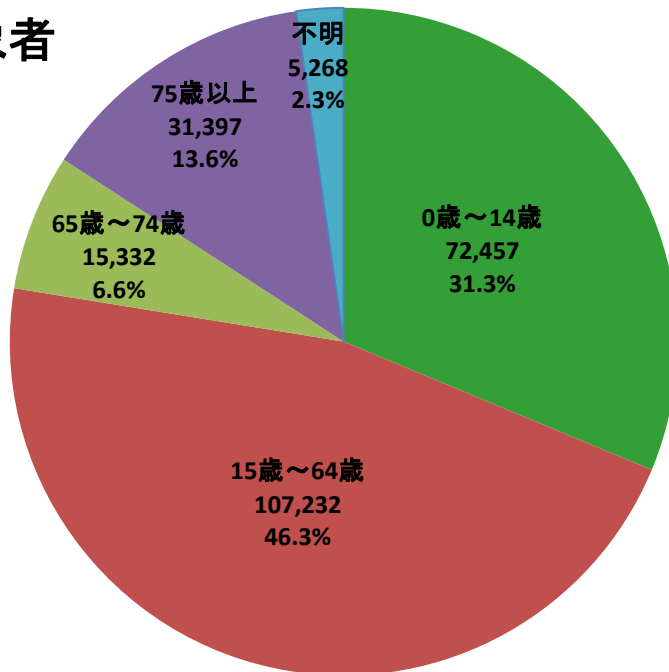


※ 令和元年のデータはすべて速報値

救急相談センター受付件数の推移



令和元年中 救急相談対象者 年代別内訳



全救急相談件数
231,686(単位:人)

※ 令和元年のデータはすべて速報値